



「読書」でふれあう

長野県PTA新聞

発行
長野県PTA連合会
長野市定町1088信濃教育会館内
TEL 026-235-1381
発行者/今井仁志
編集者/森田 誠

ホームページ
<http://www.ptanagasaki.net>
E-mail
office@ptanagasaki.net

心を育てる読書

読書の
ススメ

心をつなぐ読み聞かせ



心を
たがやす

心に
小さな
ともしび

読み聞かせのはぐくむもの

想像力

ゆたかな言葉
表現力

親子の
ふれあい



子どもたちは本を読んでもらうのが大好きです。良い本は、読んで
も、聞いても、心に響いてくるものです。
中でも、読み聞かせは、子どもの心を育てるだけでなく、親子の心
をつなぐことができるのだそうです。

CONTENTS



PTA読書会がセホ
ランティアの近況を
話しています。

特集「読書」読み聞かせ…… 2面



県教委とPTA連合
の教育懇談会が行わ
れました。

県教委との教育懇談会…… 3面



小・中・高の学校を
取材しました。特色
のあるPTA活動が
話されています。

単P訪問…… 4面



時を遡る事四十有余年、ある町に友人がいた。彼は大変な読書好きで、放課後友だちと遊ぶより図書館通いを優先するほどの読書家だった。親から貰った本を贈られるだけで大喜びするようになった。少年だった。そんな彼に質問したことがある。「少年時代の君にとって読書とは何であったのか？」彼曰く、「一種の精神安定剤だったね。時を忘れ周りが見えなくなるから、嫌な事があっても想像の世界に飛び込むことで心のリセットができたからね」。

しかし、「彼」の読書好きは成長とともに封印されていった。それは、中学・高校と進むにつれ受験という現実の中に身を置かざるを得なくなってきたからだ。世の中の流れに取り残される不安を感じていたのだらう。

その後、「彼」は大学を経て社会に飛び出したが、しばらくは競争社会の現実から抜け出せないでいた。しかし、家庭を持ち、子どもと読書という趣味を共有できるようになった。子どもと本の貸し借りをしあい、図書館の中で、感想などワイワイガヤガヤと会話を交わす楽しいひと時を過ごすようになった。現在、「彼」の読書の虫はかなり戻ったようだ。

最近、「彼」に再び質問した。「読書によって得たものは？」彼曰く「読解力・文章力といった語学力や想像力、本を介しての社交性などが身に付いたと思うよ。精神安定剤でもあるしね」。

(Y・Y)

2月始めに緑色の封筒に入ったご案内を各学校に配布させていただいております。 PTA小・中学生総合補償制度

長野県PTA連合会が
平成10年より導入している制度です。

4月1日補償開始の申込締切は3月23日です！
詳しくは学校で配布された緑色の封筒の中の
パンフレットをご覧ください

申込締切日(送付開始)	補償開始日
3月23日	4月1日
4月23日	5月1日
5月23日	6月1日

事務局 026(234)2180



ケガをした
通院1日目から補償

ケガをさせた
通院に大ケガをさせた

病気で入院した
日帰り入院から補償開始

○24時間いつでもどこでも補償します
○個別加入に比べて保険料は約40%割安です。(注)
○保険料は年間3,000円からのパターンをご用意しております
(注)上記の割引率(約40%)は、この制度の被保険者数と保険金の割当状況によっては、今後変更となる場合があります。

引受保険会社: 共栄火災海上保険株式会社 〇お問い合わせ: 小中学生総合補償制度担当係
電話番号: 026(234)2180

「読書」読み聞かせ

特集

心を育てる 心をつなぐ

読書や読み聞かせについて、長野県道徳教育振興会議の委員である読書アドバイザーの松橋直美さんにお聞きしました。



なぜ読み聞かせが大事なのか

言葉を使ってコミュニケーションをとるのが苦手な子どもが増えています。言葉の発達には、心の成長と緊密な関係があり、豊かな心を育てるには、言葉の体験を充実させる必要があります。そのために、ぜひ絵本の読み聞かせを取り入れてください。絵本には、吟味された素晴らしい言葉がたくさん詰まっています。そういう言葉を子どもにしっかりと蓄積してあげてほしいのです。読み聞かせは、親と子が、心から素直にふれあうことができ、親子のきずなを強めてくれると思います。

読み手が楽しんで

読み聞かせるときは、素直に淡々と、心を込めて読んで、一緒にその世界を楽しんでください。子どもが読み聞かせに求めるものは、感情の共有であり、スキンシップであり、読み手とのコミュニケーションです。

自分も心から楽しむという気持ちで、五分でも十分でも時間をとれるといいですね。

中学生にも本を

身近な場所に、子どもの関心のあふれる分野を含め、幅広いジャンルの本を置いておくのも一つの方法だと思えます。ある話題が出た時「この本を読んだことがあるんだけど、お母さんはどう思ったのよ」等、本を紹介して会話を広げられることもあります。その時は読まなくても、後になつて、何らかのきっかけで、その本を手にとることもあるんですね。

読書や読み聞かせは、子どもたちの心や言葉を育てます。親子のつながりを紡いでいくものでもあります。しかし、すぐに効果が表れてくるものでもありません。あせらず、押しつけず、読書や、そこからの会話を楽しんでほしいと思います。

- 1. 想像できる絵
 - 2. ゆたかな言葉
 - 3. 子ども心に同調するもの
- 良い本の選び方



ごりよう読書聞かせの会

佐久市立田口小学校読み聞かせボランティアサークル

教室からクラスと声の間。こえる。声はやがて大きな笑い声になっていく。今日は楽しみに待っていた読み聞かせの日だ。顔なじみのお母さんたちが各教室で、大好きな本を読み聞かせる。田口小学校では午後の清掃後、十分間の読書タイムを毎日行なっている。その読書タイムの中で、月一回PTAボランティアによる読み聞かせがある。ボランティアサークルは三年前、退職された小林啓子先生の呼びかけで発足、現在は十五名ほどで活動している。

特徴は読み聞かせ終了後の反省会。それぞれが読んだ本の紹介をして、遠慮なく、

声

子どもの頃読んで印象に残っている本

「モモちゃん」シリーズ 小学校の図書室で大人気！司書の先生に頼み込んで貸し出してもらいました。

「江戸川乱歩」シリーズ 何冊もの本をドキドキしながら読みました。

「グリとグラ」シリーズ 寝る前にいつも読んでもらいました。

「エルマーの冒険」 大人になって初編を買い、子どもと読みました。

子どもに読んでほしい本

「四万十川」 子どもが私の本棚にある本を読んでいます。自然と親子関係を学べる本です。

「13歳のハローワーク」 自分の夢が見つかるきっかけになるといいなあ。

「夢をかなえるゾウ」 なんとなく日々を過ごしている自分を見直し、小さなことから一歩ずつ前向きになれる本です。

「このよでいちばん はやいのほ」 読んでいくうちに引き込まれます。子どもに読んであげたいです。

心の栄養に～中学校でも～

長野市立櫻ヶ岡中学校PTAサークル



長野市の櫻ヶ岡中学校ではPTAサークル「櫻シアター」による全校閉読会が毎年行われている。近隣の南部小学校で二十年近く続けている読み聞かせ活動を、中学校でも続けていこうと、南部小保護者OBが同好会を立ち上げたのが始まりだ。会員は「本から知識を得るとともに、本の世界にある喜びや悲しみを、心の栄養にしてほしい」との願いを込めて活動している。保護者に加え、OB、地域の方で構成されており、櫻ヶ岡中学校区の小学校で読み聞かせをしてきた経験者が多い。

6月の全校閉読会では「ギルガメシュの叙事詩」「ギルガメシュの最後の旅」の二本を、11月の希望者対象の閉読会では「三田志」を発表。作品のイメージから、会員自らが作曲したという歌やピアノ、打楽器での演奏が効果的に織り込まれる。プロ顔負けの発表に生徒は集中して観賞。子どもたちにとって少し難しい内容と思われるものでも、しっかりと耳を傾けてくれる。反対に小学生の時に聞いたことのあるようなお話でも、その頃とは違うところで感じるものがあり新鮮さもあるのだという。

声

子どもと一緒に読んで良かった本

「ちびこりらのチビチビ」 とってもスキンシップができて楽しい本。

「アントキノイノチ」 私が読んだ本を息子が読みました。主人公を通して子どもの心の葛藤や成長を実感。

「きみといるとき いないとき」 切なくて、気持ちが温まる話。子どもが好んで何度も読んで聞かせています。

「リベンジ」すると あいつはいった」 小らの息子が読んだ本を私も一緒に読んで、友情に涙した本。

「かいけつゾロリ」 子どもが好んで声を出して読んでいるのを一緒に聞いていました。

「名探偵 夢水清志郎 事件ノート」 子どもが楽しそうに読んでいたので借りて読みました。豆蔵が共有できるって良いですね。

「とべないホテル」 「じーじからのプレゼントだから」と何回も読んでいました。

平成24年度 県P共通研究テーマ決まる

家庭が原点

家庭の中でしっかり子どもと向き合おう

おめでとう日本PTA三行詩コンクール

ママがわらったら ぼくもうれしい
ママがなくと ぼくもかない
おこられたぼくは せつない
じゃ、おこったママもせつないのかなあ
(徳高南小学校3年 熊谷 大樹)

大津波 父さんの店をのみこんだ 父さん負けるな私がつくその日まで (日本PTA三行詩コンクール 文部科学大臣賞 小学生の部)



そつと頭をなでる母の手が やさしくて 寝たふりをする

長野県教育委員会と長野県PTA連合会の教育懇談会

子どもたちをとりまく 環境を考える

教育課題の解決のために情報の共有と協力を

十一月十五日、信濃教育会館において、県教委から七名、県PTAから二十七名が参加し、教育懇談会が開催された。

今井仁志会長は「子どもたちのための懇談会であるので、有意義な時間になりたい。教育にかかわっている私たちが知恵を出し、それぞれのPTA会員や地域のみなさんにも関心を持っていただけるようにしたい」とあいさつ。続いて山口利幸教育長があいさつし、今の教育についてのくわしい状況と、今後の課題についての話をされた。その後、県PTAの質問に対し、県教委からの回答があり、さらに分科会にわかれてさまざまな課題が話し合われた。以下に、主な質疑応答を載せる。

小学校「外国語活動」について

県PTA「新学習指導要領で外国語活動の導入がされたが、外国語が専科でない担任の先生や、学校の体制づくりへのフォローはどのようになっているか。県教委・県教委として、指導主事の学校訪問による指導、総合教育センターでの講座などを実施。それぞれの学校に外国語活動の中核となる教員を育成し、その中核教員が校内の研修を活性化していくという体制をつくっていくきたい。これについては、さらに研修が必要であると思う。学習の進め方のDVDの作成を検討中である。また、授業の具体的な進め方を載せた外国語活動に関する学習手引書を作成し、各学校に配布している。こういうものを活用して、どのように学習するかという点についても、指導主事の学校訪問等で校内研修が活性化するようにしたい。」

子どもの体力向上について

県PTA「一校一運動」の現在の状況と今後の展開をお聞きしたい。

県教委「県教委としては、昨年度より体力向上について検討しており、一かやけ信州っ子体力アップ事業」の一つとして「一校一運動」を行っている。今年度は、すべての小・中学校で実施している。または、実施する計画があるという状況だ。取組の内容として、中には独自の工夫をしている学校もあるが、全校でマラソンをしたり、縄跳びをし

部活動について

県PTA「部活動および社会体育に対する考えをお聞きしたい。」

県教委「部活動とは、学校教育の一環として行われる活動である。それに対し、社会体育とは保護者や地域が中心となって、学校とは切り離して行う活動である。県教委では、学校と地域、保護者と指導者が、部活動や社会体育の課題について話し合う機会を持つよう努めている。さらに、本年度、部活動と社会体育について、活動時間や規約の有無など具体的な実態調査を行い、来年度には、部活動と社会体育が効率よく行われるよう方向を示す委員会を立ち上げる考えがある。

PTA活動について

県PTA「仕事を休んでのPTA活動など、子育てには職場の理解が必要だが、企業への働きかけはどのようになっているか。」

県教委「従業員の子育て支援に積極的に取り組んでいる企業を表彰したり、働きやすい職場環境作りの取組を宣言してもらおう制度を設けたりしている。また、子育て支援に関する情報提供などを行い、企業の取組を促している。なかの子ども、子育て応援県民会議と連携し、仕事と家庭の両立について、企業や地域への活動支援情報発信を行っている。

地域との連携について

県PTA「地域ぐるみの子育て環境づくりについて考えをお聞きしたい。」

県教委「今年度、地域の子どもは地域で育てるといふ観点から、学校・家庭・地域が連携し、学校教育活動を支援する体制作りのために、地域で支える学校サポート事業を始めた。地域住民自らが、その知識や経験を生かし、子どもと地域の交流拠点としての開かれた学校づくりを推進したい。」

中高一貫校について

県PTA「県内の今後の中高一貫校の計画について教えていただきたい。」

県教委「現在、モデルケースとして嵐代と諏訪清陵を設置する段階なので、その成果を検証し、そのうえで平成三十年以降に実施する予定の第二期再編計画において、検討してまいりたい。」

学校週五日制の中での子どもたちの過ごし方について

千曲市立 埴生小学校PTA

千曲市の中心部に位置する埴生小学校は、学校教育目標として「唯聴心を掲げ、心を聴くことが出来る子どもの育成」を大切にしている。歴史の古い学校である。

完全学校週五日制が導入されて十年になり、土曜日が定着してきている。スポーツに、勉強に、趣味にとそれぞれが思い思いに活動をしている。しかし、土曜日・日曜日を有意義に活用しているとは言い難いのが現実である。そこで、家庭・学校が一体となって、現状の把握分析をし、有効な時間の使い方について考えてみた。

研究内容

- ① 土曜日の過ごし方の現状把握
- ② 「必要でない」という意見と「必要でない」という意見が半々に分かれた。しかし、PTA主催の活動を土曜日に実施することに関しては、九割が行ってほしいという結果になった。少数ではあるが、親子でできるイベント等を行ってほしいという意見もあった。
- ③ 子どもたちが参加できるイベント等の計画と実施
- ④ 親子で有意義な時間を過ごすことができるよう「食育」を考える。親子で

「親子で有意義な時間を過ごすことができるよう」をテーマに、親子でできるイベント等を行ってほしいという意見もあった。子どもたちが参加できるイベント等の計画と実施。親子で有意義な時間を過ごすことができるよう「食育」を考える。親子で



パザー会場で演奏する子どもたち

家庭・学校・地域が連携し、子どもの成長に本当に必要なとなる有意義な時間の過ごし方について、今一度見つめ直す機会ができた。

また、レシビの発行やフェスタの開催により、親子はもとより先生や地域の方々とのふれあいが深まった。今後有意義な時間の過ごし方を継続的に見直す機会が必要である。

それと共に、家族の絆を深めるために、親子で話し合いの機会を増やしたり、家族で一緒に過ごすイベント等の計画をしたりして、さらに多くの人の関わり合いを増やしていきたい。

第20次 実践報告

研究委嘱PTA

きらり輝く 子どもたちのために！

大町市立 大町東小学校PTA

近年、世の中の様々な変化につれて、家庭・学校・地域が抱える問題は多種多様になってきている。そんな中で大町東小学校・地域の連携が不可欠であると考えて、「大町東小学校グレードアッププラン」を中核にすえた取組を行ってきた。

研究内容

- ① 一年次はC・D中心情報交換の結果を学級PTA便りに掲載
- ② 「子どもを守る地域連絡会」等の場で説明協力依頼
- ③ 取組アンケートの結果を載せた本部会だよりを家庭配布

大町東小学校グレードアッププラン

プランA	子どもに学習習慣を身につけさせましょう
プランB	子どもの学ぶ意欲を高めましょう
プランC	基本的な生活習慣を身につけさせましょう
プランD	体験を通して「ふれあい」を大切にしましょう
プランE	子どもに豊かな心を育みましょう
プランF	みんなで子どもを勇気づけましょう

家庭で取組ができていた。二年次では、家庭学習の習慣、やり遂げる体験、人とのふれあい、勇気づけなども取組が向上していった。

また、家庭と子ども自身との取組相乗効果もでてきた。

学級懇談会の話し合いでも「学習習慣が身についた」「家でもあいさつや声がけを意識する」プランを意識して取り組む中で勇気づけがでるようになった。意識の変化が感じられるようになった。今後の課題

「グレードアップ」のイメージとして、各プランの具体的な取組内容や成果が紹介されている。

元気で明るく今をがんばる北城の子ども

白馬村 白馬北小学校

長野冬季オリンピックの会場にもなり、世界に知られるスキーと観光の村、白馬村。そのほぼ中央に位置し、西には勇壮な白馬三山がそびえる自然の中に、360名が通う学び舎がある。

冬にはジャンプ、アルペン、クロスカントリー、それぞれのスキー種目の練習や記録会を行い、1校1運動としてスキーを位置づけ、体力向上を図っている。



単位PTA訪問 No.73

他を思いやる凛とした品性を目指して

長野市 北部中学校

開校当時の50数年前から宅地の造成が進み、また商業地域としても発展している長野市北部の若槻・浅川地区に、850名の生徒が通う校舎がある。

学校教育目標「心は清く真理求めよ」「身はすこやかに強く鍛えよ」「いずれの日かは代を思い立てよ」のもと、さわやかな挨拶とともに学習・生徒会活動・部活動などに精一杯取り組んでいる。



雪を運び上げてのジャンプ台整備

PTAが作ったジャンプ台
昭和四十三年、PTAによる材料寄付と労力奉仕により、体育館北側に木製ジャンプ台が完成し

三十八年の歴史「スキー交歓会」
ジャンプ台の視察がきっかけで、富山県小見(おみ)小学校との交歓会が続けられていた。これはPTAが主催し、交流や



ジャンプ台で小見小との交歓会

スキー指導委員会
PTA専門委員会の中にスキー指導委員会がある。スキーが盛んな学校ならではの委員会である。まずは、PTAバザーに合わせ、スキー用品の交換会を行う。予め不要になったものがある家庭と、欲しいものがある家庭を調査し、調整して、バザー当日に交換などが行われる。子どもたちの身体の成長に合わせて親にとってはありがたい企画となっている。

た。五年後には増築され、十五メートル級のジャンプ台となった。昭和五十二年に鉄骨のジャンプ台に建て替えられ、現在に至るまで、PTAにより維持管理が行われている。維持費には、バザーの売上金などが充てられ、PTA作業では塗装や補修なども行われる。また、冬休みの最終日にはジャンプ台の雪の整備をし、子どもたちが翌日から使えるように整えられる。雪の少ない年には、雪を運び込んででもジャンプ台を完成させる。

現在は隔年で、高学年の希望者が訪問と受け入れを交互に行っている。スキーのほか、昼食会や交流会などでも友情を深めている。中には、父親が子どもの頃に交流を体験したという児童もあり、歴史の長さを再確認した。

二月には、白馬のスキー場を使って本格的なアルペンスキー大会が行われている。昭和四年から続いている学校行事ではあるが、運営をこの委員会が、全面的に支援している。児童の誘導から記録までスタッフの多くがPTAであり、PTAの手がなくては行えない行事となっている。子どもたちは、公式の大会で使われるコーンで、公式ルールにより、オリンピックで見られるようなタイムレースに挑戦することができる。

宿泊の受け入れなど、すべてを運営する。交流は、ジャンプ、アルペン、クロスカントリーなど、大会選手のための両校合同強化スキー合宿のような形ではじめられた。また、ホームステイなどスキー以外でも交流してきた。

正面玄関には地域の方々の生ける花や作品が飾られていた。生徒会では毎年老人ホームに椅子を贈っているという。他を思いやる精神、がしっかりと根づいているの思いを強くした。

今も尚、絵本を片手に持ち、読んでもらうことを楽しみに待っている幼い娘が我が家にはいる。(S・A)

『ほくび』の発行
北部中PTAでは、年三回発行するPTA新聞に加え、PTAだより『ほくび』をほぼ月一回発行している。「PTA活動にもっと目を向けてほしい」との思いからきめ細かな情報発信を目的としている。校内環境整備や資源回収など各部からのお知らせや、研修会、講演会報告などが写真入りで分かりやすく、そしてタイムリーに発信されている。



PTAだより「ほくび」

北中式資源回収
校舎中庭には「あつかばハウス」と名づけられたリサイクルハウスがある。ミニ資源回収として

雪解け水でできた小さな川辺を、行き交う子どもたちの明るい声、土の香りを運んでくる風。時が流れ社会の情勢が変わるうとも、子どもたちの元気な姿や自然の営みは、毎年変わることなく春の訪れを予感させてくれる。ある日、書斎の整理をしていた時のことだ。埋もれていた書籍の中から、一冊の色褪せた本が出てきた。幼い頃、父や母に読んでもらった本だ。丁寧な修繕の跡が幾つか残るその本は、当時から大事にされていたことを物語っていた。長い年月の経過を実感するとともに、幼年時代の頭の中に広がった絵本の世界の印象が脳裏に蘇ってきた。子どもたちの姿や自然の営みに心を寄せ、季節の移ろいに思いを馳せる感性やロマンの心。それらは、父や母が読んでくれた何冊かの絵本の世界からも育まれてきたものかもしれない。その時、ふとそう思った。

のバザー品の提供依頼に応えての呼びかけや現地報告の記事も掲載された。発行二年目を迎え、A四版サイズの黄色い紙一枚の『ほくび』は保護者の間にもその存在が定着してきた。子どもが黄色い用紙を持ち帰ったらPTAからのお知らせという意識も深まっている。今後PTA会員と役員との架け橋になれるよう

伝統のPTA作品展
北部中の文化祭「北友祭」にはPTA作品を展示するコーナーがある。各クラス・先生方・保護者の力作が並び展示室は文化祭の中でも特に感動する場所といわれる。親子で作る各クラスの作品は、学年毎テーマを決めて取り組む。一年生は学級旗、二年生は陶芸やモザイク写真など学級作品、三年生は入試に向けた絵馬というように、作品にはそれぞれの特色が表れる。



親子でクラス作品づくり

古紙を回収するこのハウスは、参観日の十二時から十七時まで開放される。「新聞紙一人一束ご持参下さい」との呼び掛けに、参観日当日は新聞の束を手に来校する保護者の姿が多数みられる。また年に一度、地区生徒会とPTAが地域で活動する資源回収がある。三十一地区という広い地域をまとめるため、総務役員と各専門部から選出された実行委員が、何度も会合を開いて準備を進め、大規模に行われる。

- 編集後記
- ◇ 広報委員
 - 藤巻 秀卓 (大北)
 - 宮島歌奈子 (上小)
 - 小口 浩史 (諏訪)
 - 小平 昭哉 (上高井)
 - 赤羽 聡 (上高井)
 - 岡澤 健一 (上小)
 - 田中 真二 (上水内)
 - 待井 昌位 (更埴)
- ◇ 編集委員
 - 赤羽 聡 (高山中長)
 - 宮本 勇 (若穂中頭)
 - 伊東 貴世 (後町小P)
 - 木内 京子 (安茂里小P)
 - 柳澤 真美 (櫻ヶ岡中P)
 - 木下まなみ (瀬花小P)
 - 田中富貴子 (城山小P)
 - 赤塩 香 (瀬花中P)

僕たち! 私たち! がつくっています!

信州の牛乳を飲もう!

長野県生乳生産販売委員会
信州 JA全農長野
長野県牛乳普及協会